

## ■フランス：ロレーヌ地方トゥール市に世界最大の太陽光発電所建設

フランス北西部ロレーヌ地方ムルト・エ・モーゼル県のトゥール市に EDF の子会社 EDF エネルギー・ヌベル (EDF EN) 社が現時点では世界最大となる 14.3 万 kW の太陽光発電所の建設を計画していることが 2010 年 3 月 1 日、同県選出のナディーヌ・モラーノ家族・連帯閣外相によって明らかにされた。建設地点は 6 年前に廃用となった 136 空軍基地跡地で、敷地面積 522 ヘクタールのうち 143 ヘクタールが発電所用に利用される。EDF EN 社は用地 (評価額 840 万ユーロ) を取得する代わりに、防衛省と 22 年間の借地契約を結び、年間約 100 万ユーロの借地料を払って用地を借り受ける計画である。建設費は 4 億 3,400 万ユーロである。2010 年夏までに建設許可の申請を行い、着工は 2011 年秋、2012 年には最初の設備の運開が予定されている。建設地点では汚染物質やアスベストの除去作業が必要と見られ、建設時の作業員約 150 人の大半は地元企業から優先的に雇用される。また運開後の雇用は 15 人前後である。周辺市町村にとっては、年間約 140 万ユーロの不動産税収入、新たに建設される空軍歴史保存館や再生可能エネルギーの家への観光客の来訪、基地跡地の植林などによる経済効果が期待されている。